

サツマイモは、繊維質の高い健康食品として、時々、マスコミに取り上げられるが、飽食時代の一現象のような感がする。品種ごとの加工特性、用途等、特徴を把握した上での生産、販売ができていないと言いがたい。作る側の情報不足、作る側・使う側・食べる側とのコ

ミュニケーションができていないと痛切に感じるのは筆者だけであろうか。

かんしょは、あまりにも用途が広すぎるが品種の違いによる長所、欠点をふまえた上で消費者にアピールする働きがけが、今後特に必要であろう。

イモ類・豆知識

三六三万八千屯 63年産春植え 馬鈴薯収穫量

農水省発表、63年産春植え馬鈴薯の都府県収穫量及び北海道予想収穫量(63年8月15日現在)は次の通り

★都府県

作付面積 四六七〇〇ha

(前年比 九九%)

10a当り収量一八三〇kg (九七%)

収穫量八五万六八〇〇屯 (九六%)

作況指数 九六

★北海道(予想収穫量)

作付面積 七二七〇〇ha

(前年比 九七%)

10a当り収量三八三〇kg (九六%)

予想収穫量 二七八万一千屯 (九三%)

作況指数 一〇三

★合計

作付面積 一一九四〇〇ha

(前年比 九八%)

10a当り収量三〇五〇kg (九六%)

予想収穫量 三六三万八千屯 (九四%)

作況指数 一〇一

★北海道の概況

予想収穫量は前年比二〇万五千屯(七%)の減少が見込まれる

これは作付面積が二二〇〇ha(三%)減少し10a当り収量も豊作であった前年を一六〇kg(四%)下回ると見込まれるため。

▲いもの肥大は、6月下旬以降多照・寡雨に推移している事から、一部の地域を除いて茎葉の枯上りが早まり、やや緩慢に推移しているが、作柄は作況指数一〇三の「やや良」が見込まれる。

北海道産馬鈴薯

原料いもの生産を押さえ平成元年度概算要求でも今後の自由化に備えた諸施策を講じて行かねばとされているものの、その線に添った展開をして行っても販売価格の点で、コンスターチに較べてどうしても割高となってしまう。そのコンスは原料高と旺盛な需要を映して再値上げと鼻息は荒しい。

それに対して国産各品は大量在庫が一向に捌けない、抱合せ売却分以外はコンス等を利用してカバーして行く傾向が強い。この様に完全な迄に浮き上ってしまったて居り、これを是正するには価格を大幅に引下げねばならないが、今迄のいきさつから

それもままならない。

つれて市中人気は殆んど名目化した儘の状態で動意を削がれている。

△東京の人気(一kg)

現品一五五〜一五七円

直積

カンショのフリー 苗生産へ

茨城・なめがた 農協で取り組む

【茨城】カンショのウイルス病を撲滅しよう——と、行方郡のなめがた農協は、独自に昨年からウイルスフリー苗の生産に取り組み、早ければ再来年にも農家へ配布できそう。

同農協はカンショ紅高系などに致命的な被害を与えている「粗皮症」の被害から守るために始めたものの、粗皮病はウイルス病とされ、表皮がまだら状に白くなり、商品価値が全くなくなる。粗皮症を防ぐには、フリー苗におきかえるしかない。

同農協は六十二年春から準備をはじめ、生長点培養に必要な人工気象室も導入した。今春からは網室ハウスで増殖をはじめた。農家への配布方法は、具体的に決定していないが、うまくいけば再来年ごろから配布できそうという。